

2. 事業の概要と成果													
(1) 上位目標の達成度	<u>上位目標：対象地域の治安状況を含む生活環境が改善する。</u> プロジェクト対象地域であるテグシガルパ市南東部の3地区において、より住みやすい環境が生まれつつある。その背景には、プロジェクト活動を通じて、学校に通う青少年リーダーの育成とコミュニティ・グループの形成がなされ、また各地区における住民同士の信頼関係が醸成されたことにより、一定程度、治安状況が改善されたことが挙げられる。また、多様な活動を通じて、コミュニティ・グループと地域の教育機関（小学校、幼稚園）との親密な関係が構築され、教育機関をハード面、ソフト面を地域ぐるみで支援していくことの重要性が深く理解されるようになった。今後、こうした理解に根差したコミュニティ内の様々な活動が、青少年や住民の生活環境の一層の改善に貢献していくことが期待できる。 さらに、地域警察、NGOなどの協力を得て、対象地域外の人々をコミュニティ活動の現場へ積極的に招待したことにより、教育省、保健省などをはじめとする行政機関のスタッフにも意識の変化が現れ、例えば、「これまで治安の悪さを理由に支援の目が向けられてこなかった地区にこそ支援が必要である」という発言が聞かれるようになった。そして、当地では自分の居住地以外は危険と考えて移動しないという傾向がある中、住民からは「近隣の地域住民と協力して活動することにより、他地域の人々ともよい関係が築けた」という感想が述べられており、お互いに認めあうことで住民が自身のコミュニティに対する誇りを取り戻し、よりよいコミュニティにしていきたいという希望を持つことにつながった。プロジェクト活動を通じて、上述したような正の変化が具現化しつつあり、上位目標は達成傾向にあると判断する。												
(2) 事業内容	<u>活動1：コミュニティに貢献する青少年の育成</u> 1 青少年リーダーの育成研修 プロジェクト対象3地区（ケネディ、アト・デ・エンメディオ、ラス・パルマス）の中高一貫校において、事業1年目で選出されたリーダーに加え、2年目に新規に選出されたリーダーを対象に、研修計画の策定方法、アイスブレイキングの手法、ジェンダー、モチベーションを維持向上させる方法等のテーマについての研修を行った。同研修は、2017年4月、6月、9月に計3回開催され、それぞれ44人、35人、29人が参加した。 2 ピア教育の計画・準備 研修を受講したリーダー達は、各地区の学校ごとに毎月会合を行い、同じ学校の生徒にピア教育を行うための計画・準備を行なった。同会合には、3校合計で5月29人、6月24人、7月19人、8月24人、9月20人が参加した。リーダー達は、研修で学んだことを踏まえ、生徒にとって最も身近で重要と考えられる「自尊心」「価値観」「暴力」「若年妊娠/避妊」「ジェンダー」等をテーマとして選択し、これらのピア教育を実施するための日程の調整や使用する教材の準備を行った。 3 ピア教育の実施 上記会合で策定された計画に沿って、5月～9月にかけてリーダー達はピア教育を各校5回ずつ実施した。3校における参加人数は以下の通り。 <table><tr><td></td><td><u>リーダー</u></td><td><u>参加生徒</u></td></tr><tr><td>1回目</td><td>27人</td><td>356人</td></tr><tr><td>2回目</td><td>28人</td><td>399人</td></tr><tr><td>3回目</td><td>26人</td><td>364人</td></tr></table>		<u>リーダー</u>	<u>参加生徒</u>	1回目	27人	356人	2回目	28人	399人	3回目	26人	364人
	<u>リーダー</u>	<u>参加生徒</u>											
1回目	27人	356人											
2回目	28人	399人											
3回目	26人	364人											

4回目 : 30人 361人
5回目 : 30人 366人

5月の初回はリーダー達が緊張して黙り込んでしまったり、事業スタッフに助けを求めたりする場面も見られたが、2回目以降は落ち着いて実施できるようになった。また、ピア教育を受ける側の生徒も積極的に参加するようになり、教員からも以前の授業態度からは想像できないほど前向き・積極的な姿勢に変わったと言われるほどの変化が発現した。

4 校内クラブ活動の実施

青少年の健全な育成を目指した取り組みの一つとして、様々な校内クラブ活動への参加が奨励され、それぞれのクラブにおいて自主性、創造性が尊重された活動が実施された。事業開始2年目のクラブ活動は、1年目から継続している「アニメクラブ」「アートクラブ」「フットサルクラブ」「美容クラブ」に加え、「folklore クローレダンスクラブ」「護身術クラブ」「バレーボールクラブ」などが追加された。対象3校におけるこうしたクラブ活動は、毎週または隔週で実施され、事業期間中に延べ959人の青少年が参加した。なおこれらの活動は、昨年同様、地域の大学生ボランティアの協力を得て行われたことにより、学外への視野の広がりや、青少年同士の学び合いなどにもつながった。

活動2：コミュニティ・グループによる住みやすいコミュニティに資する活動の実施

本活動は、先述した主に①～③の研修並びに活動の企画実施プロセスを経た青少年リーダーと地域住民が協力して、より快適（住民間の信頼関係に基づく安全で住みやすい）コミュニティづくりを念頭に実施されたものである。なお各種活動の実施にあたっては、事業1年目に形成された、主に青少年リーダーと住民からなるコミュニティ・グループが中心となり、準備から実施・評価に至るまでの全プロセスに取り組んだ。

1 コミュニティ・グループに対する研修

本研修は、コミュニティ・グループの能力強化を目的として、先行事業で作成された「住みやすいコミュニティ活動マニュアル」を用い、5月、9月、11月に、それぞれ69人、65人、56人の参加を得て実施された。研修内容の主要なテーマは、「コミュニティの成り立ち」、「地域開発のための計画・予算」、「市民参加の促進」などで、学びの機会に少なかった大人にも配慮しインターアクティブ手法を用いたことにより、参加者が自身の経験を持ち寄り活発な研修となった。

2 コミュニティ活動の計画・準備

同研修で学んだ内容を基礎に、コミュニティ・グループがコミュニティ・活動の計画・準備を行うため、それぞれの地区において会合を重ねた。事業期間中に開催された会合は、58回（3地区の合計）を数え、参加者は延べ620人にのぼった。

3 コミュニティ活動の実施

こうして計画されたコミュニティ活動が各地区で各5回行われ、延べ3,610人の地域住民が参加した。各地区で行われた活動は下の通り。

ケネディ地区：

①清掃キャンペーン

アト・デ・エンメディオ地区：

①サッカー大会

- | | |
|----------------|-----------|
| ②敬老イベント | ②清掃キャンペーン |
| ③日本・ホンジュラス文化交流 | ③文化フェスタ |
| ④子供サッカー大会 | ④子供の日イベント |
| ⑤子供の日イベント | ⑤平和行進 |

ラス・パルマス地区：

- ①清掃キャンペーン（1回目）
- ②敬老イベント
- ③医療団
- ④子供の日イベント
- ⑤清掃キャンペーン（2回目）

活動3：関係アクターの「青少年の育成と住みやすいコミュニティづくり」への理解とコミュニティ活動への協力が得られる。

本活動は、各地区で多様な活動が継続的に実施されるよう、コミュニティ・グループへの新規加入者も含めた協力者を確保し、良好な関係性を確立するために実施された。地域内において、本活動との関係が深いアクターによるコミュニティ活動への理解がより一層深まるよう、下記の研修を行った。

1 大学、政府機関、NGO 等への研修

まず、大学、政府機関、NGO 等を対象に、「青少年および青少年リーダーの育成／コミュニティ・グループ形成マニュアル」 および「住みやすいコミュニティ活動マニュアル」の2冊を用いて全3回の研修を実施した。各回のテーマと参加者数は以下の通り。

<u>テーマ</u>	<u>参加者数</u>
5月：コミュニティ・グループ形成	18人
7月：コミュニティ活動実施方法	14人
10月：社会スキル（ライフスキル）	22人

参加者からは、各組織の活動にも直接的に活かせる内容であるため、研修で学んだことを是非実践したいとのコメントがあった。また、後日受講者がそれぞれの組織において同様の研修を実施するケースが見られるなど、コミュニティ活動を促進する本事業のツールに対する理解と活用が、他の組織においても促進されていることを確認した。

2 教員・保護者への研修

下記テーマを中心に、事業対象の中高一貫校3校において各3回の研修を行い、延べ487人の教育関係者が参加した。

アト・デ・エンメディオ地区：「校内暴力防止」「衝突の仲裁」「感情コントロール」

ラス・パルマス地区：「チームワーク」「生徒の評価方法」「説得力のあるコミュニケーション」

ケネディ地区：「青少年の現実と対応」「新評価法」「感情表現・コントロール」

また、対象3校の保護者会合の機会を利用して、コミュニティ活動に対する理解を求めるとともに、「家族内のコミュニケーション」「子供との衝突の解決」「家族の連携」「子供のドラッグ使用について」「子供と性について話す方法」など、学

	校や保護者の希望に沿ったテーマについての研修を計10回実施し、延べ1,111人が参加した。研修後には、保護者から現実的に自分の子供と抱えている問題についての質問や相談が多く寄せられ、関心の高さが窺え、こうした内容の成人を対象とした研修ニーズの高さを改めて認識することができた。これらの研修を通じて、それぞれの関係アクターよりコミュニティ活動に対してさらなる理解と協力が得られるようになった。 <u>変更申請（2017年10月2日承認）に基づき追加した活動</u> 1 コミュニティ活動環境整備 ケネディ地区では地域内の公衆トイレの改修、小学校の壁面塗装、アト・デ・エンメディオ地区では小学校および幼稚園の屋根の改修、ラス・パルマス地区では中高一貫校の運動場の整備、小学校の屋根の改修が各地区のコミュニティ・グループの調整のもと行われた。 ラス・パルマス地区の小学校では、コミュニティが一丸となって取り組んだ小学校の屋根の改修が行政の目に止まり、年度初めの教育省始業イベントの開催校に指定されることとなった。屋根の修理完了式も兼ねた同イベントは、在ホンジュラス日本大使館員同席のもとで開催された。 2 コミュニティ活動ガイドブックの作成 2年間の活動をコミュニティ・グループとともに振り返り、活動を継続していく上で重要な情報を集めたガイドブックを500冊作成し、関係機関および地域住民に配布した。同ガイドブックには、関係機関の活動内容や連絡先をまとめたものも含まれており、活動ごとの組織間のコーディネートがより円滑に行えるよう工夫されている。
(3) 達成された成果	<u>事業目標：対象地域においてコミュニティ・グループと青少年による「住みやすいコミュニティ」づくりを目指した活動の実施体制が整う</u> 【指標1】コミュニティ・グループが関係機関と連携して活動を実施している。 ⇒達成 事業1年目に構築された関係機関との連携を維持・強化して、コミュニティ・グループが自ら活動を実施できるようになった。 事業期間中に33団体、延べ639人の関係機関の担当者からの参加・協力が得られた。以下、その一部を報告する。 -地域警察： テント等の貸し出し、交通規制、イベント会場パトロール -現地公立小中高校： 施設提供、参加者確保 -市役所： 清掃人員提供、ごみ収集車、トロフィー -空軍： イベント開催ロジ担当、医師配置、医薬品提供 -モンテレイ保健所： 婦人科健診実施 -ラ・ホヤ保健所： 医者、看護師による診察、医薬品提供 -職業訓練校： 訓練校生徒によるボランティア活動（散髪等） -現地商店： 物資提供 -Cruz Verde（現地 NGO）： イベント中の応急処置対応 -テレビ局： 広報 -新聞社： 広報および軽食提供 -Instituto Nacional de la Juventud： サッカーユニフォーム -Ciudad Mujer： 展示ブース出展 -ダンスグループ： ダンス披露

-退職者協会： コーラスグループ合唱
-Guias de Familia: 清掃活動協力 他。

また、コミュニティ活動の実施を通じて、コミュニティ・グループの地域での認知度が高まり、連携を求めてくる団体も現れるなど、協力関係が広がった。

【指標2】実施するコミュニティ活動に地域住民延べ500人が参加し、その実施体制が確立される。

⇒達成

延べ3,610人の地域住民が、コミュニティ活動に参加した。コミュニティ・グループは計画した15回の活動をすべて実施し、目標の7倍を超える地域住民の参加を得られた。このことから、コミュニティ活動の実施体制は確立されたと言える。

(SDGs への貢献)

コミュニティにおいて生活環境を向上させる活動を実施できる能力が向上したことから、持続可能な開発目標 (SDGs) の目標11、ターゲット11.3の「参加型、包括的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化」に地域レベルで貢献できたものとする。

【指標3】対象住民の中で「住みやすいコミュニティ」に向けた活動を認識・理解する人が50%に増える。

⇒達成

事業実施前後で300人ずつ（各地区ランダムに100人を抽出した3地区合計300人）にインタビュー調査を行った結果、以下の通り、80%以上がコミュニティ活動を認識し、60%近くが実際に活動に参加したことが確認できた。また、いずれも大幅に向上したことから、事業の有効性も示された。

①コミュニティ・グループの活動について聞いたことがある。: 25% ⇒ 83%

②コミュニティ・グループの活動に参加したことがある。: 15% ⇒ 59%

成果1：コミュニティに貢献する青少年が育成される。

【指標1-1】ピア教育を受ける青少年の関連知識が向上する。（最終理解度テスト平均点が70%以上）

⇒達成

各校5回実施したピア教育には、各回平均369人（3校合計）の青少年（生徒）が参加し、自尊心、薬物、リーダー、若年妊娠予防などについて学んだ。

ピア教育の前後でテストを実施したところ、対象3校の平均点は75点から82点へと上昇した。さらに学校教員、生徒に対するインタビューから、ピア教育を行うことで、生徒がよりテーマに興味を持って取り組む様子が窺え、これらに関する意識の高まりも確認できた。

【指標1-2】対象3校30人の青少年リーダーがピア教育活動を計画し、各校5回以上実施する。

⇒達成

対象3校で平均28人のリーダーがピア教育活動を計画、各校5回ずつの教育活動を実施した。

各リーダーが研修で学んだ知識を活かし、ピア教育の実践経験を重ねることによって、テーマ設定から計画、準備、実施に至るまで自ら実施することができるようになった。

【指標1-3】延べ400人の青少年が、校内クラブ活動に参加する。（3地区合計）

⇒達成

3校合計延べ959人（男：491、女：468）と目標の2倍以上の青少年が校内クラブ活動に参加した。クラブ活動に参加したことで、一度も経験したことのなかったスポーツに挑戦したり、打ち込めるものを見つけたり、交友関係が広がったりと、この年代の成長に欠かせない経験をする機会が得られたとの声が多く聞かれた。

上記指標で示される成果に加えて、アト・デ・エンメディオ地区の学校では、本事業で活動してきたリーダー達が、2018年の校内活動実施のためのリーダーに指名されるなど、事業の枠を超えて地域に貢献できる人材が育成されたという事例が確認されている。

（SDGs への貢献）

これらの活動を通じて青少年が今後の生活の中で必要な知識を身に付けることができたことから、持続可能な開発目標（SDGs）の目標4、ターゲット4.7の「2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力文化の促進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、すべての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」ことに地域レベルで貢献できたと言える。

成果2：コミュニティ・グループにより、住みやすいコミュニティづくりに資する活動が実施される。

【指標2-1】コミュニティ・グループメンバーが「住みやすいコミュニティづくり」に関する知識・理解を高める。（最終理解度テスト平均点が70%以上）

⇒達成

コミュニティ・グループメンバーに対して「住みやすいコミュニティづくり」のための研修を実施し、研修の前後で内容に関するテストを行ったところ、平均点が65点から93点へと大幅に上昇し、知識・理解の向上が確認された。

【指標2-2】各コミュニティで「住みやすいコミュニティ」づくりのための活動が策定され、各々5回以上実施される。

⇒達成

各地区で活動計画が策定され、これに基づき、それぞれ5回ずつ活動を実施し、3地区合計で3,610人の地域住民が参加した。

ケネディ地区：合計1,365人

- ①清掃キャンペーン（3月、男：148人、女：284人）
- ②敬老イベント（4月、男：23人、女：82人）
- ③日本・ホンジュラス友好文化イベント（6月、男：73人、女：38人）
- ④子供サッカー大会（8月、男：260人、女：208人）
- ⑤子供の日イベント（9月、男：143人、女：106人）

アト・デ・エンメディオ地区：1,222人

- ①青年サッカー大会（5月、男：176人、女：11人）
- ②清掃キャンペーン（6月、男：93、女：94人）
- ③文化フェスタ（7月、男：27人、女：60人）
- ④子供の日イベント（9月、男：267人、女：238人）
- ⑤平和行進（10月、男：90人、女：166人）

パルマス地区：1,023人

- ①清掃キャンペーン（3月、男：28人、女：47人）
- ②敬老イベント（7月、男：4人、女：26人）
- ③子供の日イベント（9月、男：120人、女：97人）
- ④医療団（9月、男：436人、女：233人）
- ⑤清掃キャンペーン（1月、男：9人、女：23人）

コミュニティ・グループは、活動の計画・準備から実施、評価までを一貫して自ら実施できるようになった。各地区で計画された活動は100%実施され、さらにそれぞれ述べ1000人を超える住民の参加が得られた。

この貢献要因として、活動実施経験を重ねたことによるコミュニティ・グループの能力向上に加え、グループ内の信頼関係が構築されたことが挙げられる。各グループの青少年と成人が、それぞれがコミュニティの中で重要な役割を担う存在であることを認めるようになり、協力して活動を進めることができるようになった。さらに、これはグループ内にとどまらず、地域の中でも住民同士で挨拶をしたり、話しかけを行ったりする機会が増えるなどの変化が生じた。

【指標2-3】コミュニティ・グループメンバーの8割が、住みやすいコミュニティづくりのための活動実施に参加している。

⇒達成

年間の活動を通し、コミュニティ・グループメンバー75人のうち64人（86%）がコミュニティ活動のための会合（全58回）や実施に参加した。途中でメンバーの増減はあったものの、各グループが必要に応じてメンバーを増やすなどの対策を取り、活動の計画・実施に携わることのできる人員が確保された。また、活動実施後の振り返りでは、多くのメンバーが、計画から実施までの過程で多くを学び、充実感を得ることができたという声が聞かれた。

【指標2-4】1回のコミュニティ活動あたり、3地区合計で100人の地域住民が、参加する。

⇒達成

1回のコミュニティ活動あたり、3地区合計で722人（3,610人／5回）の地域住民が活動に参加した。詳細は上記、指標2-2の通り。

成果3：関係するアクターに、コミュニティによる「青少年の育成と住みやすいコミュニティづくり」の重要性が認識され、コミュニティ活動への協力が得られる。

【指標3-1】コミュニティ・グループが主体となって関係機関とコンタクトを取り、活動への協力を得ている。

⇒達成

コミュニティ・グループは、現地NGO、保健所、市役所などの関係機関の役割と責任を把握し、また協力や支援の可能性を見出しつつ、それぞれの担当者等とコンタクトを取り、活動への協力を得ている。また、そうした関係機関から、コミュニティにおける彼らの活動を実施する際、コミュニティ・グループの参加を求めて連絡があるなど、双方向の関係が築かれている。

【指標3-2】活動地域の学校教員各校30人（計90人）が研修を受講し、内容理解度が平均80%を超える。

⇒達成

対象3校で各3回の研修を実施し、1校平均162人（3校合計487人）の教員が受講した。

テーマは学校の要望により様々であったが、「青少年の現実とその対応」についての研修では、事前・事後テストの平均が68点から82点へと上昇した。

全体での内容理解度は平均84%となり、学校教員が研修内容を理解したことが確認できた。また、こうした継続的に研修を実施してほしいとのコメントが多く寄せられたことから、学校教員を対象とした同研修に関するニーズの高さを再認識した。

【指標3-3】活動地域の保護者各箇所30人（計90人）が会合に参加し、思春期層への対応の仕方などについての知識を身につけている。

⇒達成

3校合計10回の会合を実施し、1校平均370人、（3校合計1,111人）の保護者が研修を受講した。「子供のドラッグ使用」「子供と性について話す方法」など、保

	護者の関心に基づく内容の研修を実施した。研修後に内容理解度のアンケートを実施したところ、平均正答率は92%であり、これらの知識を十分習得したことが確認された。
(4) 持続発展性	- 各地区で形成されたコミュニティ・グループは自発的に会合を実施し、話し合いを重ねて自分達で計画・実施することができている。また自分達に不足しているリソースについては関係機関から率先して調達できており、住みやすいコミュニティの実現に向けて継続的に活動する能力を身に付けている。 - 本事業の研修を受講した機関が「青少年および青少年育成マニュアル」や「住みやすいコミュニティ活動マニュアル」を用い、組織内の同僚や関係者に対してカスケード（反復）研修を開催するなど、住みやすいコミュニティづくりに貢献できる組織を増やすことができた。さらに、当該マニュアルは教育省本省のカリキュラム作成部署から高く評価され、その一部が教科書に記載される承認を行うための手続きが開始されたことは特筆に値する。 - ラス・パルマス地区のコミュニティ・グループが、同地区を管轄する保健所から保健委員会の一員として参加して欲しいという要請を受けたり、またケネディ地区ではコミュニティ・グループと地域警察が連絡手段を共有するようになるなど、本事業を通じて構築された協力関係が継続的に、発展的な広がりを持つことに大きな期待が持てる。さらに、アト・デ・エンメディオ地区の対象校では、育成された青少年リーダーが、学校活動を主導するリーダーとして選出されるなど、全校レベルで青少年リーダーが継続して活躍していくことが期待できる。 - 国家警察地域警察部署との関係性においては、地域警察が住民と連携して地域活動を実施する際に、本事業で形成したコミュニティ・グループの組織力と青少年への影響力を活用していくことが合意されており、また、地域警察および地区内のNGO、自治会等とは、今後も各組織が協力して地域活動を継続していくことが確認されている。このように双方の長所を活かした連携により、今後のコミュニティ活動の発展が期待できる。